

令和3年度ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究

第1年次研究報告会

宇治支援学校 —自立活動の取り組み—

研究の背景

つけておきたい
資質・能力の3つの柱

指導の根拠・流れ図

調和的発達

生活・国語・算数・音楽
図画工作・体育等の各教科
道徳科・特別活動

調和的発達の基盤
自立活動

+



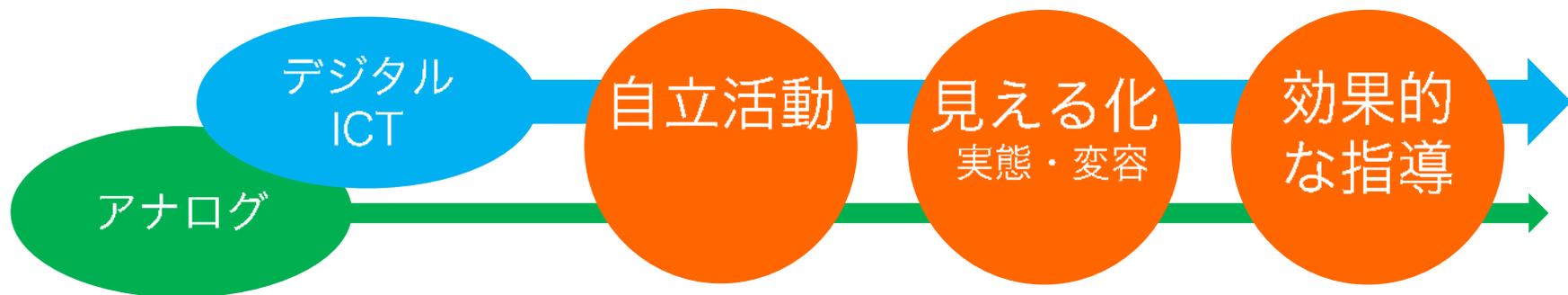
研究目的

学習上又は生活上の困難さの改善・克服のための、アナログデジタル双方からのアプローチの充実



研究概要

自立活動の指導においてICTを利活用することで、より効果的な実態把握ができ、実態や変容を「見える化」することで、より効果的な指導方法を示すことのできるのではないかという仮説に基づいて、その成果と課題について調査研究を行った。



研究の内容

- 遠隔でのやりとりを含めた、児童生徒の実態把握の在り方の研究
- 自立活動や、通級による指導について、遠隔による実施を含めた指導及び評価の在り方の研究
- 遠隔でのやりとりを含めた、外部の専門家や在籍学級担任等との連携の在り方の研究

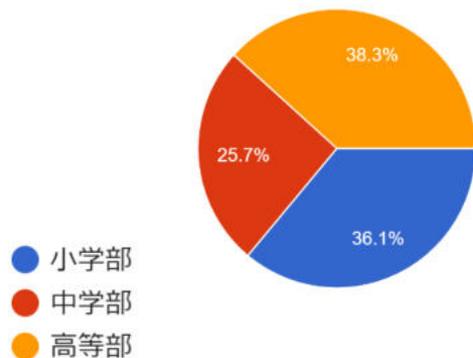




連携シートのデジタル化

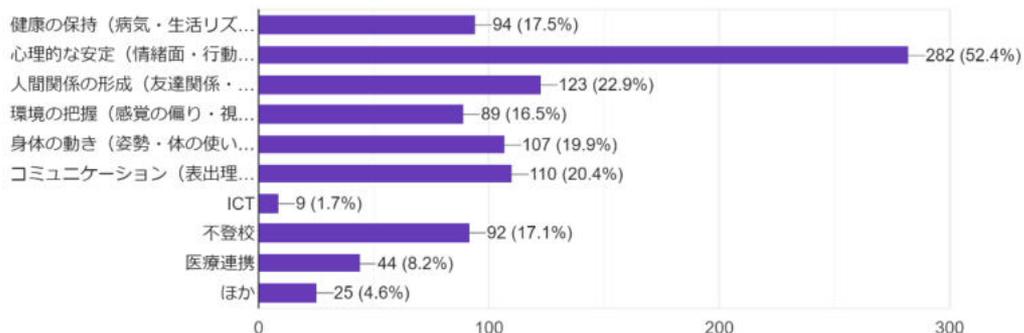
児童生徒の学部をお選びください

538 件の回答



相談の区分をお選びください（複数選択可）

538 件の回答



自立活動の「見える化」

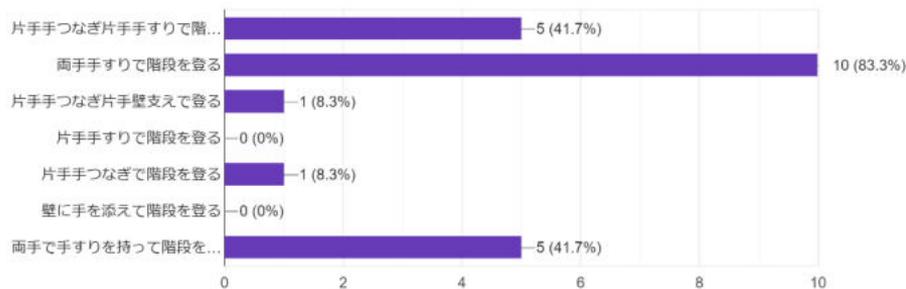




自立活動の「見える化」

クリアした課題にチェック（高さ20cmの階段）

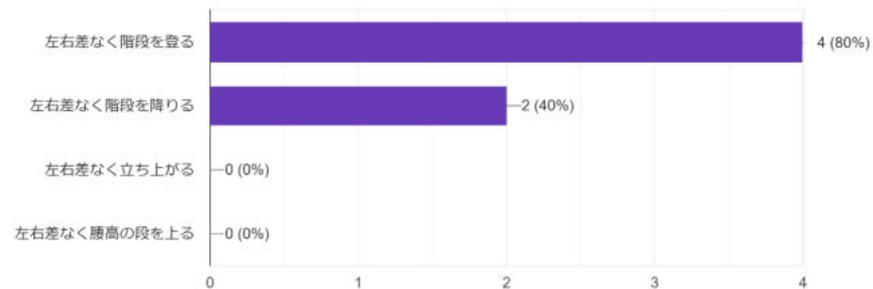
12件の回答



並列的目標設定

クリアした課題をチェックしてください（体の動きの左右差）

5件の回答



段階的目標設定

16回／29件の指導計画の見直し（令和3年4月～12月）

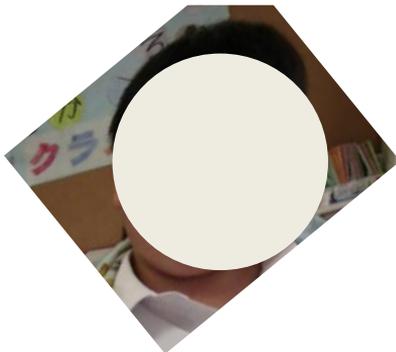
ICTを活用した不登校生への指導 1

中学部3年生

知的障害・ASD

発達7歳～

肥満・過敏



小学校2年～不登校傾向 本校中学部に入学

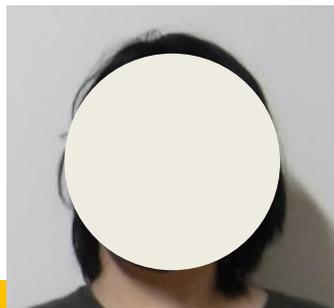
中1：1学期まで週1・2日登校

▲パニック・暴言暴力。

中2：登校1回

中3：5月後半～週1回別室登校

家庭
福祉
連絡
利用



目標

- ・ 心身の調子に合わせて、学習活動の調整ができる。
- ・ 自己選択、自己決定し、成功体験を積む。
- ・ 身体を動かす機会を増やし、体力をつける。



ICTを活用した不登校生への指導 1



本人を交えた登校会議

- ・登校に成功した先輩の事例を知る
⇒スモールステップの大切さ
- ・意思表示をする（やってみたい！心配！）
- ・登校の作戦を立てる（個室・短時間・送迎）



本人へのレジュメ

なぜ学校に行きたくなかった？ 学校でやってみたいことは？ 学校で心配なこと？

② 登校に成功した先輩の話 学校が楽しい場所になる4つのポイント

・安心できる個室 ・短時間から始める ・送迎してもらえる ・好きな勉強

健康観察・振り返り

- ・自己調整、生活リズムへの気づき



身体作り

- ・心拍、歩数を意識した運動





ICTを活用した不登校生への指導 2

中学部3年生

知的障害・適応障害

発達7歳～

強い不安感



就学前～不登校傾向 本校中学部に入学

中1：2学期から欠席が急増

中2：週1回登校日を設定しての登校

中3：月1～2回登校

福祉利用を開始

家庭
連絡

目
標

- ・ 自己選択・自己決定し、決めたことはやりきる習慣をつける。
- ・ 行動化で、前向きな気持ちや気分に変える。
- ・ 好きなことを他者と共有しながら、やりとりの経験を増やす。
- ・ 身体を動かす機会を増やし、体力を回復させる。



ICTを活用した不登校生への指導 2

自己選択・自己決定でのスケジュールリング

- ・ 下校時間を保護者や指導者と確認。
- ・ 提示された活動の中から、その日にできること、したいことを選択。
⇒下校までの過ごし方をスケジュールリングし、共有する。
- ・ 活動場所(教室・別室)やメンバー(クラスメイトと・指導者と)を確認。



プログラミングアプリ
「プロゼミ」

健康観察・振り返り

- ・ 心身の調子への気づき
- ・ 感情のラベリング
- ・ 活動の調整

Google
フォーム



iPad

身体作り

- ・ 徒歩での登下校 (片道30分程)
- ・ 指導者とできる簡単なルールのあるスポーツ
(カーリングポッチャ、バドミントンなど)



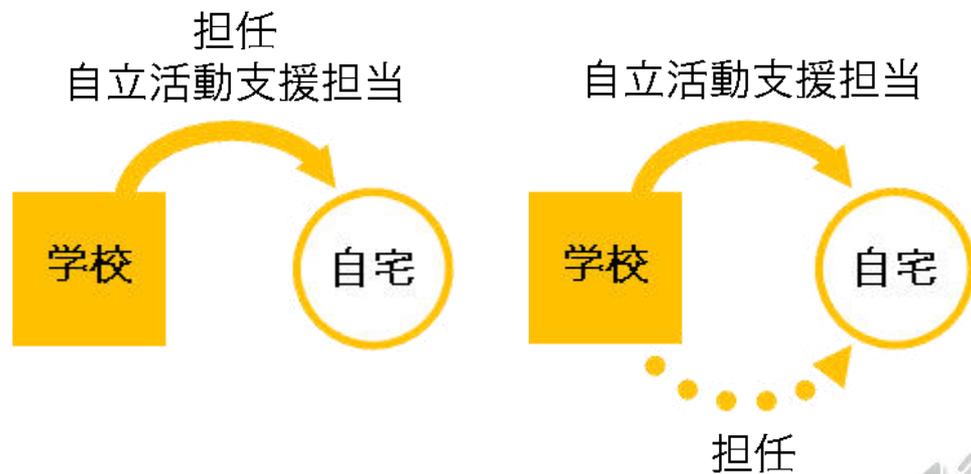
ICTを活用した不登校生への指導 3

- 高等部地域コース 1 年
- DMD
- 「流れ図」で自立活動の課題の整理
生活リズム、障害の進行、対人関係、意欲の低さ、学習の積み上げの難しさ、など
- 自立活動「心理的な安定」を中心課題にして、ICTを活用した指導
- ICT/iPad、Zoom、Theta SC2 (360°カメラ)、Sphero、SPAK+、Oculus Quest 2、など



ICTを活用した訪問教育

- ZOOMを使用した遠隔からの訪問教育
- 目標は指導の継続





ICTを活用した構音指導

高等部1年生

知的障害、神経線維腫症Ⅰ型
中等度難聴、口蓋裂既往歴

発達5歳頃

(音声言語のみの理解、表出は3歳後半頃)

- ・口蓋裂の既往歴
- ・中1難聴発覚（HCなし両耳 60～70dB前後）、補聴器装用スタート



聞こえにくさ + 伝わりにくさ



目標

- ・聴覚活用をしながら構音運動を調整する力や音韻意識を育てることで構音の明瞭度向上を図る。
- ・音声以外のコミュニケーション手段も選択活用することで相互的なコミュニケーションが成立する経験を積み、自分の思いを伝えきる力を育む。



ICTを活用した構音指導



か行の練習

かめ

＼かめ／

＼ため／

とお格
うで格

舌の形を
再度確認



ICTを活用した健康指導

高等部2年生

知的障害・自閉症

発達3歳5ヶ月頃



5月連携シートより相談内容
運動不足解消（健康の保持）

<担任聞き取りより>

移動時に座り込みが多い。

朝から覚醒が低い時がある。

継続して座ってられない。

運動量が少ない。

体力がなく筋力もないので常にだらんとしている。



★流れ図作成



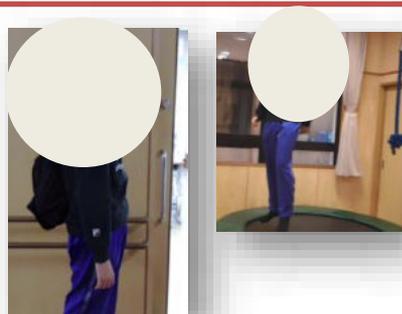
目標

- ・身体を動かす活動を増やし、体力や筋力の向上を図る。
- ・座り込みや寝転がったりせず、スムーズな移動ができる。
- ・継続した運動に取り組み、体型維持につなげる。

ICTを活用した健康指導

- ・一定のリズムで毎日同じ距離を歩く
- ・そうじ（教室から3階の端までモップかけ）
（2往復）
- ・楽しみ（5分以上の有酸素運動）
（バランスボール、トランポリン）
- ・目的や役割をもって主体的に取り組む環境設定

給食準備→給食→運動→給食片付け→トランポリン



アップルウォッチ、Mi
スマートバンドを使用し
、1日の活動量を測定



Google フォーム入力

覚醒状況、座り込み回数、運動量、消費カロリー、体重、できた運動をGoogleフォームに毎日入力

1	覚醒状況 午前	覚醒状況 午後	睡眠時間	運動	座り込みの回数	座り込みの回数	午後	体重	心拍（運動後）
2				散歩(負荷をかけて10分以上継続して早歩き)					100
3	悪い	良好		散歩(負荷をかけて10分以3回)		0回			70.8 100

睡眠と運動の関係については、家庭への持ち帰りができ次第活動量計で分析予定。



ICTを活用した医療専門職派遣事業

- ①6月30日 障害者スポーツ（完全オンライン）
- ②9月22日 愛着障害とその二次障害（対面：個別相談／オンライン：研修会）
- ③12月21日 視覚のアセスメントについて（対面／オンライン）
- ④1月21日 特別支援教育と理学療法の連携（完全オンライン）

①③④については府下の特別支援学校にも配信

成果

- 自立活動の指導のための、アナログ・デジタル双方からのアプローチの充実
- ICT教材やアプリケーション等を活用した実態や変容の数値化・グラフ化
- 遠隔でのやりとりを含めた連携の蓄積

課題

- 学校全体としての自立活動の実践力の向上
- ICT教材やアプリケーションを活用し実態や変容を見える化できる対象事例の蓄積
- 宇治支援学校における取り組みの成果と課題を、地域支援と連動させていくこと

次年度へ向けて

流れ図の活用による
指導内容の整理

実態把握の見える化
数値化・データ化

自立活動の実践充実
指導力の向上

宇治支援学校から
地域支援へ